

## 「RESAS」(地域経済分析システム)を活用した和東町の地域経済動向分析

### 1. はじめに

和東町は京都府南部に位置する小規模な町で、主に茶産業に依存しています。この地域は、美しい自然に囲まれ、75%が山林で占められています。和東町で生産されるお茶は、特に高品質な宇治茶であり、市場でも高価格で取引されています。和東産の茶は宇治茶の約40%を占める重要な役割を担っています。

しかしながら、和東町は少子高齢化と人口減少に直面しています。2023年4月1日現在の人口は3,571人で、高齢化率は48.2%に達しています。

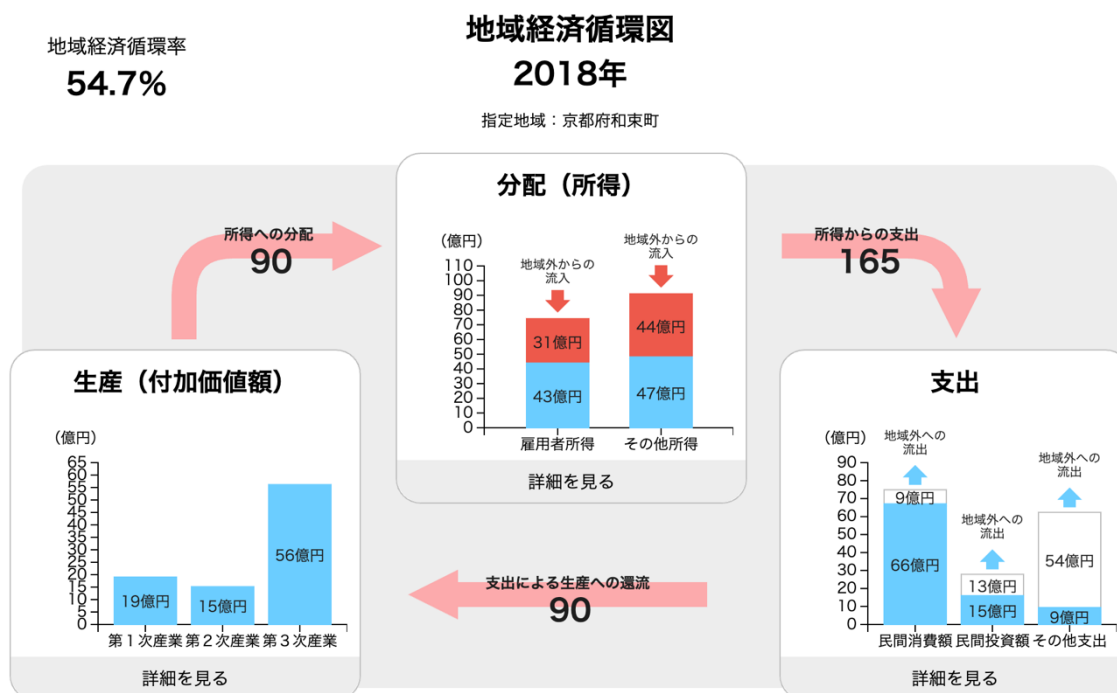
このレポートは、和東町の今後の事業計画策定の際に考慮すべき要素を明らかにし、地域経済の継続的な発展に資する提案を行うことを目的としています。



## 2. 和束町の産業の現状

「RESAS」(地域経済分析システム)を活用した和束町産業の現状を紹介します。

### (1) 地域経済循環マップ



#### <考察>

- ・生産(付加価値額)において、和束町は第3次産業が生み出す付加価値額が62%を占めています。和束町のビジネスからの収益は、地域経済の重要な部分を占めており、特に地元のお茶の生産と販売が経済に大きな影響を与えていることが伺えます。
- ・分配(所得)において、和束町は地域外からの流入が合わせて75億円と多いです。
- ・支出において、民間消費額の88%はこの地域で消費されています。一方で、その他支出は86%が地域外への流出となっています。これは地元で提供されていない商品やサービスの購入、または外部への投資や貯蓄によるものかと思われる。

#### <総括>

この図から読み取れることは、和束町の経済がその伝統的な茶産業に強く支えられているということです。しかし、町外への資金流出も見受けられ、地元経済の持続可能性を高めるためには、町内の再投資や地域ビジネスの支援が重要になるでしょう。また、若い世代への雇用創出や地域社会の活性化といった取り組みが、人口減少と高齢化という課題に対処する上で重要な戦略となります。

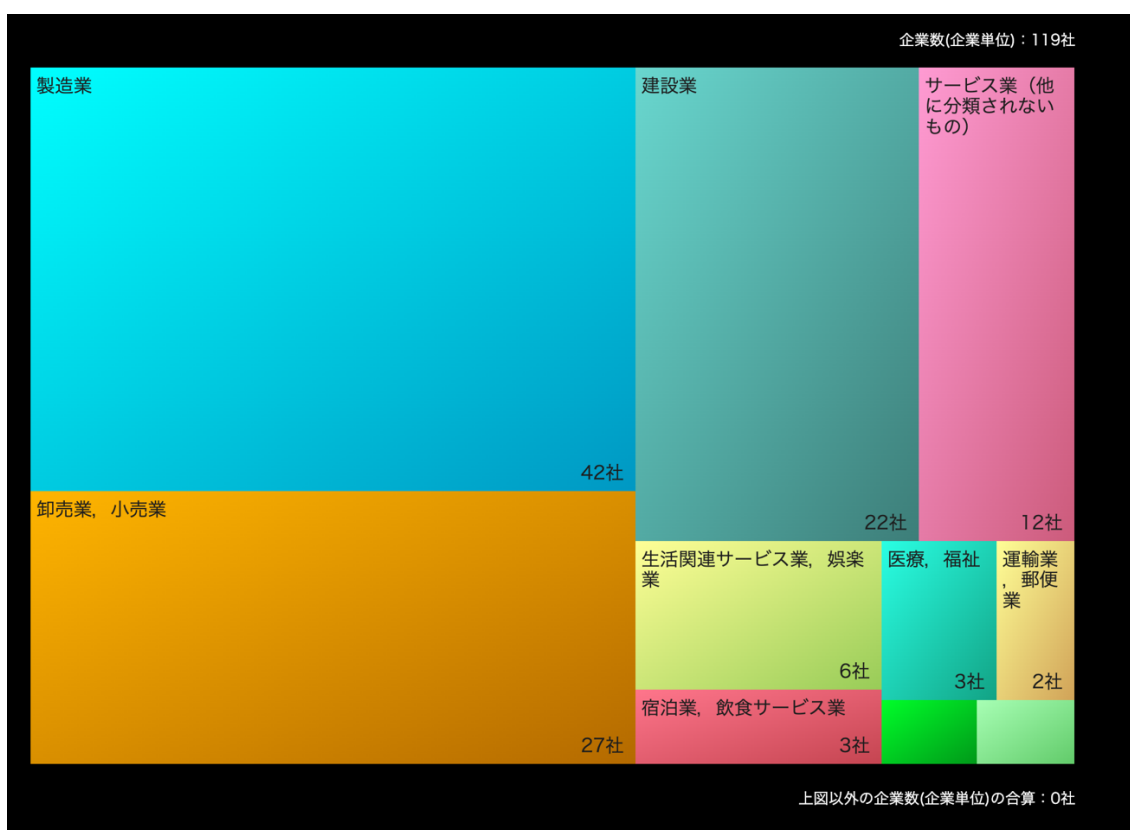


その他のサービス（緑色）：8 億円となっており、小規模ながらも多様な収益源が存在することを示しています。

#### <総括>

この分析から、和東町の経済は農業、特にお茶の生産が中心であり、それを補う形で製造業、商業、建設業、行政サービスが経済を支えていることが伺えます。地方自治体としての公務支出も地域経済において重要な役割を果たしています。

#### (3) 産業構造マップ



#### <考察>

- ・青色（最大のエリア）：これは「製造業」を示しており、和東町の産業の中で 42 社を占めています。お茶の加工や関連製品の製造が含まれる可能性が高いです。
- ・オレンジ色：「卸売業、小売業」が 27 社で、地域の流通と販売に関連する業種を指しています。お茶の販売などがこれに含まれるでしょう。
- ・グリーン色：「農業、林業」が 22 社で、これは和東町のお茶の栽培が大きな役割を担っていることを示しています。

・ピンク色: このエリアは「サービス業（他に分類されないもの）」として12社を占めており、飲食店、宿泊業、教育、保健など、他の産業に分類されないサービス業種を表しています。

#### <総括>

これらのデータから、和束町は農業に強く依存している一方で、製造業、特に加工業が大きな比重を占めていると考えられます。特に、お茶の加工と販売は重要な経済活動であり、地域経済の基盤を形成していると言えるでしょう。また、サービス業や建設業、情報通信業も、小規模ながら地域経済に貢献していることが分かります。

全体として、和束町の経済は農業と製造業によって大きく支えられており、これらの産業を通じて地域外への商品の流通も行われている可能性が高いです。サービス業を含む他の産業も、地域の総合的な経済活動に必要な役割を担っています。



#### (4) まちづくりマップ・From-to 分析

### 滞在人口の地域別構成割合 都道府県 → 市区町村

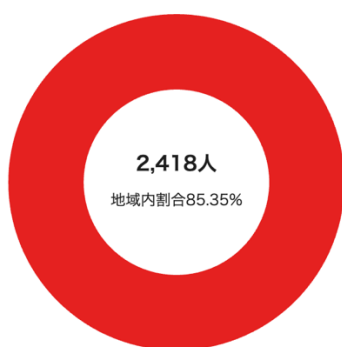
京都府和束町

2023年6月 休日 14時

総数 総数 (15歳以上80歳未満)

滞在人口合計：2,833人 (滞在人口率：1.04倍)  
(国勢調査人口：2,712人)

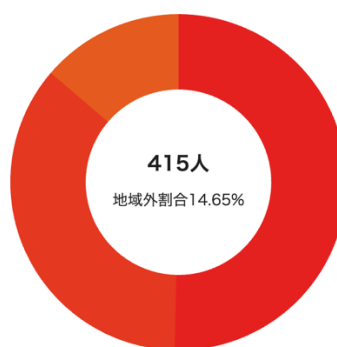
#### 滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

● 1位 京都府 2,418人 (100.00%)

#### 滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

● 1位 大阪府 209人 (50.36%)

● 2位 奈良県 149人 (35.90%)

● 3位 滋賀県 57人 (13.73%)

#### <考察>

左のグラフから、和束町の滞在人口は2,418人であり、これが総滞在人口の85.35%を占めていることがわかります。これは、和束町の住民や訪れた人が町内に滞在している状況を示しており、大半の人が町内に留まっていることを意味しています。

右のグラフでは、地域外からの滞在が415人で、全体の14.65%を占めています。このうち、半数以上の209人(50.36%)が大阪府、149人(35.90%)が2位の奈良県、57人(13.73%)が3位の滋賀県を意味しており、いずれも隣接する府県からの流入が多いことがわかります。

### 3. 今後の和東町産業発展へ向けて

和東町は、長い歴史と伝統に裏打ちされた茶産業を中心とした経済活動が盛んな地域です。町の主要産業である茶の生産と加工は、地域の経済を支える柱であり、その質の高さから国内外で高く評価されています。今後の和東町の発展方向性を考えるにあたり、二つの大きな機会が見込まれます。

#### (1) お茶の海外展開

まず、産業面では、和東町の特産品であるお茶の海外展開が挙げられます。グローバルマーケットへの進出は、地域産業の新たな収益源を開拓し、国際的なブランド認知を促進する潜在力を秘めています。これには、適切なマーケティング戦略と世界各国の消費者ニーズへの洞察が必要です。

海外展開をすでに先行している和東町内事業者に知見を提供いただき、和東町全体として海外販路開拓を後押しする体制を構築していきます。

和東茶の高付加価値化、ブランド化を推進することで高級茶市場での国内外での存在感を高めていきます。有機栽培など特別な栽培方法を導入し、その茶葉の独自性や物語を強調します。

#### (2) 観光産業の発展

次に、観光面では、犬内峠のトンネル開通によるアクセスの改善や、名古屋、大阪、京都からの交通アクセスの良さが和東町の魅力を一層引き立てる要素です。これらは、観光産業の発展にとって追い風となります。

観光客は、茶畑の美しい景色とお茶の文化に触れることで、和東町の魅力を深く体験することができます。

和東町内において、茶畑を見るに加え、立ち寄りたくなる魅力的なスポット・お店を増やし、和東茶や美味しいお茶の淹れ方を知っていただく機会を増やすことが地域の活性化につながります。

そのためには、創業者と店舗物件のマッチング、低価格で創業できる店舗物件の整備、創業者が起動に乗るための経営・資金面のサポートが必要です。

そして、和東町での体験は観光客が帰宅後も和東町産のお茶を購入し続ける動機付けとなります。

この体験を持続的な消費行動に繋げるためには、海外市場を含めたオンラインショップの整備と、効果的なデジタルマーケティングが不可欠です。インターネットを活用した情報発信は、和東町のブランド価値を高め、消費者との接点を増やすための重要な手段となります。

現地のお会いをきっかけに、SNS やネットショップでオンラインでもつながりを維持する取り組みが重要です。

### (3) 和束町への定住促進

和束町の観光客の増加と資金の流入は、地域の活性化だけでなく、定住促進にも寄与します。観光を通じて地域の魅力を発信し、より多くの人々が和束町に足を運び、最終的には住む場所として選ぶことが期待されます。このようにして、観光は地域経済の循環と成長に貴重な役割を果たすのです。

定住促進には以下のような取り組みが考えられます。

1. **住宅支援策の拡充:** 若い世代やファミリー層をターゲットに、住宅の購入や建設に対する補助金や低利の融資制度を提供。また、空き家の活用やリノベーション支援によって、住宅選択肢を増やします。京都府の移住促進・移住者等活躍促進事業費の認知度向上にも取り組みます。
2. **リモートワーク環境の整備:** 在宅勤務やテレワークが可能な環境を整備し、都市部からの移住者を促進します。高速インターネット接続、共同作業スペース・コワーキングスペースの設置、デジタルトレーニングプログラムの提供などが有効です。
3. **地域コミュニティの活性化:** 地域のイベントや活動に新住民を積極的に巻き込むことで、コミュニティへの参加を促進します。地元住民との交流を深め、地域に根ざした生活をサポートします。
4. **地域資源の活用:** 和束町独自の自然や文化を活かした観光開発。農業体験、自然散策、地域の祭りやイベントなど、地域の魅力を前面に出したプログラムを提供します。
5. **経済的な動機づけ:** 地域に新たに事業を立ち上げる起業家や、地域企業への就職を希望する人々に対する税制上の優遇措置や助成金の提供を行います。
- 6.

これらの施策を組み合わせ、多角的なアプローチで和束町への移住を促進し、定住化を支援することが重要です。地域の特性を生かしつつ、新たな住民が安心して暮らせる環境を整備することが、長期的な定住促進のカギとなります。



(4) 地域おこしの取り組み例の紹介

①高知県沢渡地域の茶農家の取り組み:

- ・ 伝統行事「秋葉まつり」と地元のお茶を融合した地域ブランドの構築。
- ・ 地域全体が家族というコンセプトで、商品パッケージに地元の風景をデザイン。
- ・ 地元のカフェをオープンし、地域住民や訪問客を応援する取り組み。

<参考記事>土佐茶で町おこし

<https://tosabushi.com/2019/03/8337/>

②青森県田舎館村の田んぼアート:

- ・ 農業資源を活用した観光振興の取り組み。
- ・ 芸術性の高い田んぼアートで年間 30 万人以上の観光客を集客し、地域経済に貢献。

<参考記事>地域活性化の成功例 20 選 | 日本全国の自治体の取り組みを紹介

<https://sdgs-compass.jp/column/1997>

③奈良県明日香村の空き家活用:

- ・ 歴史的な文化財が多い地域の特性を生かした観光施設の開発。
- ・ クラウドファンディングを活用した資金調達で古民家をリノベーションし、新たな宿泊施設を設立。

<参考記事>地域活性化の成功例 20 選 | 日本全国の自治体の取り組みを紹介

<https://sdgs-compass.jp/column/1997>

(5) 地域おこしの支援策のポイント

- ①地域資源の活用：地域固有の自然資源、文化、歴史、伝統産業などを活用した施策。これにより、地域の特色を生かした観光振興や産業の活性化が図れます。何を全面に押し出せばユニークな存在になるのかをよく考えます。
- ②やる気のある事業者主体のプロジェクト：事業者が主体的に参加するプロジェクト。事業者のやる気を側面支援することで、実際のニーズに合った施策を策定しやすくなります。
- ③若者や外部人材の誘致：新しいアイデアや技術をもたらす若者や外部の人材を積極的に誘致することで、地域に新たな活力をもたらすことができます。また、そういった人たちと地元の人との橋渡し役となり、協力体制を構築することが非常に重要です。
- ④教育・研修プログラムの提供：地域住民や事業者に対する創業セミナーや、研修・教育プログラムを提供し、スキルアップや新たな事業創出を促します。
- ⑤デジタル技術の導入：IT 技術やデジタルツールを活用して、地域の情報発信力を高め、効率的な事業運営を支援します。そのためのセミナー・個別支援を行います。
- ⑥地域間連携の促進：他の地域や自治体との連携を深めることで、規模の経済を生かし、共通の課題解決に取り組むことができます。和束町だけでなく、相楽郡全体として地域の魅力強化と発信力アップのための連携に取り組みます。

#### 4. おわりに

和東町の茶産業の持続可能性と地域社会の活性化に向けた展望として、本レポートは地域固有の資源を活用し、新たな価値を創出することの重要性を事例や参考情報を交えて、強調しました。

町の将来像を描くには、若年層に和東町のことを知ってもらい、観光訪問してもらい、定住につなげることが不可欠です。

和東町が持続可能な発展を遂げるためには、町民一人ひとりが茶産業の誇りを次世代に継承し、新しい人も歓迎しながら、地域全体で支え合うコミュニティの形成が鍵となるでしょう。